



強力長シャックル 脱落防止タイプ(TSLG) 取扱説明書

1.はじめに

- ◆ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読み頂き、内容をよくご理解頂いたうえで、ご使用ください。
また、必要と思われる部署や現場には必ず配布し、必要な場合にはいつでも参照できるようにしておいてください。
- ◆この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって次の2段階に区分しています。

 危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと考えられる場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況となり、使用者が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が考えられる場合。

- ◆尚、『注意』に記載した事項でも、取扱い方法によっては、『危険』と同じ状況になる場合があります。

2.ご使用にあたって

危険

- ◆使用荷重を確認し、使用荷重以下の荷重で使用してください。
使用荷重をこえて使用しますと事故の原因となります。また、衝撃荷重を掛けないでください。
- ◆使用前点検で外観上不具合や各部に異常がないか調べてください。外観上不具合や各部の異常がある場合はご使用にならないでください。
点検要領及び廃棄基準については「シャックルの点検要領及び廃棄基準」を参照してください。
- ◆強度低下及び安全の低下を防止する為、下記の様な改造は行わないでください。
1. 機械加工等の追加 2. 溶接 3. 熱処理 4. 塗装、めっき処理 5. 塗装剥がし 等
- ◆想定していない下記の様な箇所で使用しないでください。
1. 高温雰囲気(200℃以上) 2. 溶接作業周囲 3. 水中 4. 腐食性雰囲気(酸、アルカリ等) 5. 寒冷地 等
- ◆使用方法については下記の図に基づき使用してください。

【正しい使い方】



荷重方向に対し平行方向



シャックル同士の連結

【誤った使い方の例】



荷重方向に対し垂直方向



ねじが締めきっていない



ピンを吊り点にする



ワイヤ等の吊り具の重なり



曲げ荷重がかかる



横荷重がかかる

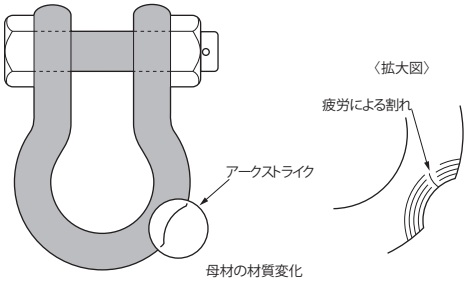
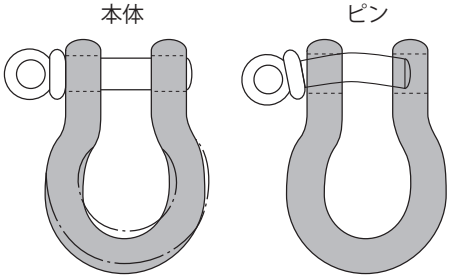
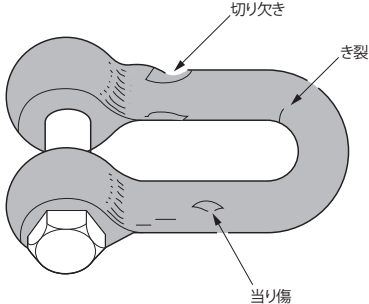
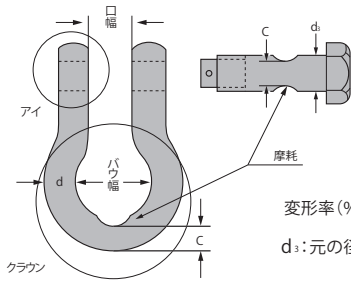


ピンに回転の力がかかる

注意

- ◆使用前点検でピンが抜けないことを必ず確認してください。
- ◆製品の投下、放り投げ、ハンマー等で強く叩く、重量物の下敷き等を行わないでください。

シャックルの点検要領及び廃棄基準

	点検要領	廃棄基準	処置
アークストライク	<p>アークストライクがないか点検してください。</p> 	<p>アークストライクがあるものは不可。</p>	<p>廃棄する。</p>
変形	<p>本体及びボルト・ピンが変形していないか点検してください。</p> 	<p>元の寸法より変形しているものは不可。</p>	<p>廃棄する。</p>
き裂、傷	<p>当り傷、切り欠き、き裂がないか点検してください。</p> 	<p>き裂があるもの。</p>	<p>廃棄する。</p>
		<p>当り傷、切り欠きがあるものはグラインダ等でなめらかに削りとり、その深さが元の寸法より5%を超えるものは不可。</p>	<p>廃棄する。</p>
摩耗	<p>クラウンおよびボルトが摩耗していないか点検してください。</p>  <p>変形率(%) = $\frac{d_3 - c}{d_3} \times 100$ d_3:元の径 c:摩耗径</p> <p>変形率(%) = $\frac{d - c}{d} \times 100$ d:元の径 c:摩耗径</p>	<p>摩耗率が元の径の5%を超えるものは不可。</p>	<p>廃棄する。</p>

●点検・保管方法

- シャックルを点検するときは、欠陥の発見を容易にするため、錆や油脂等の付着物を灯油または洗油できれいに洗浄してください。
- シャックルは一定の期間を定めて磁粉探傷検査を行ってください。
- 使用後のシャックルは、塵芥（ちり・ごみ）や錆等の付着物をきれいに除去し、ねじ部には油脂を塗布し、保管してください。
- 風雨にさらされないように保管してください。
- 地面に直接ふれないように保管してください。
- 本体とボルトは必ず組み立て保管してください。

- あまり積み上げないように保管してください。（当り傷を生じさせない為や荷崩れを起さないため。）
- 使用開始日より10年を超えるものは、交換を推奨します。
- 点検チェックシートはTAIYO公式サイトよりダウンロードできます。

